



組合員の購読料は
組合費に含まれます

荒川区西日暮里2-55-1
国鉄労組東京地方本部
発行責任者 石上浩一雄
編集責任者 常盤達雄

No.1705 定価
15円

2008年

12月5日

国労加入を
大胆に訴えよう

職場の変化を見つめ 組織拡大へ

国労東京地本は、昨年から組織拡大に向けたテーマを「動きをつくる」として取り組んできた。

JR発足以降新規採用者の配属イコールJR東労組組合員という構図で、長年に亘るこ

の図式が私たちの中に「当たり前」的な感覚を作り、新規採用者の加入獲得といった意識そのものが希薄になってきていた。

しかし、二〇〇六年十一月のJR東日本会社との包括的和解、二〇〇六年四月施行の個人情報保護法、そして何よりも各級機関が歯を食いしばり二〇〇年を超える取り組みを積み重ねてきた結果として、二〇〇二年は、未加入状態での現場配属が定着してきている。長年の「当たり前」を覆し、国労加入の仲間が続々と出てきており、「JR東労組以外にも組合があった」「国労の方と知り合い人間性に引かれた」と、それぞれが語っ

本部が経験交流集会開催

一月一六・七日の二日間、本部主催による第四回組織拡大経験交流集会が開催された。

全国から一七三名の仲間が集まり、闊い報告を持ち寄り、全国の取り組みに学びあった。東西で進む組織拡大の取り組みに、青年部員も氣勢を上げ、団結の水を酌み交わした交流では、参加青年部全員が壇上において音頭を取り、スクラムを組んでの国労組合歌が熱唱された。岩元・本部青年部長を中心にまとまった青年部組織の元気な姿に、国労の将来の光を見ることの出来る交流会となった。

今年七月の組織拡大経験交流集会



ているように、大きく職場の情勢は変化してきている。

JR東労組発行「加入速報NO三」(二〇〇八年一月十九日付)では、今年六月の大会以降の拡大を三名と報じている。ちなみに国労は東京地方本部管内だけでも六月以降八名の加入者を迎え入れている。職場情勢の変化をしっかり見つけ、今こそ新規採用者等の加入獲得に打って出る決意を固め合う時と、強く呼び掛ける。

やっぱり国労が良い!

この一年間、組織活動の基本は職場イコノル分会組織であるとの認識から、地方本部

要求の多数派めざす

長野原自動車分会は、群馬県草津温泉への乗り換え口にあたる長野原町に職場がある。

社員数は約七〇名、うち組合員は六名(東日本から全員出向)で頑張っている。主要業務は長野原駅から草津・六合村などへの在来線の運行と草津・新宿間の高速バスを運行している。

年間を通して観光客でにぎわう一方、人口の減少に伴い今年度で六合村線の廃止が

連載企画 分会紹介 ⑧ 長野原自動車分会



決定。赤字路線は切り捨ての会社の営利優先政策は交通弱者を切り捨て、公共交通としての責任を放棄しようとしている。

一方、高速線では新宿・草津を九往復、更に東京・三ヶ日(浜名湖)への夜行を含むネットダイヤを行っている。

また九月には他支店において、高速バ

として各級機関の協力を頂き取り組みを強めてきた。三月の東京駅での新規加入以降、二〇代の青年から退職間近の先輩たちまで、幅広い層の人たちが「やっぱり国労が良い!」と、新規・復帰加入をしてきてくれている。青年層はそれまでの所属労組に「人間味を感じない。労働組合じゃない」と言い、先輩たちは「最後は国労でいたい!」と打

貨物 年末手当・緊急課題で中央行動

本部は一〇月二四日、〇八年度年末手当三五ヶ月、一二月五日支払いを貨物会社に申し入れると共に、要求額の満額獲得と「三島・貨物の経営諸問題」「整備新幹線開業に伴う第三セクター化」の問題など、緊急を要する諸課題についても積極的に行動を展開するとして、十一月一三日中央行動を行った。

一時からの国土交通省前宣伝行動は他団体の請願行動と重なったため、三〇分からの開催となった。全貨協・中曽根副議長の司会で始まり、本部・小池業務部長、東日本本部・伊藤委員長、東京地方本部・石上委員長、国労闘争団・小野副議長長の挨拶を受け、国土交通省前宣伝行動を終了した。



昼食後、参議院議員会館で〇八年末手当獲得総決起集会を開催。一四時から代表による、国土交通大臣要請行動を取り組んだ。

引き続き、貨物各支社、支店、現場長への申入れ、職場集會、座り込み、社宅ビラ配布など、機関と連携した取り組みを行うよう指示が出された。

ス乗り場で死亡事故も発生し、常に危険と隣り合わせの職場環境になっている。現場で働くプロパー社員の多くは現在の労働条件に対して「在宅休養がとれない」「時間が不規則で十分な睡眠が取れない」などの不平不満を抱えている。国労組合員に対して他労組を含め、仕事の悩みや勤務についての相談が寄せられている。

分会では、少数意見を取り入れるように多数派を目指して労働条件の改善に努めている。

組織人員が減少する中、他労組の社員の意見を取り入れたり、相談にのったりする中から、国労運動について理解してもらおうと社員と交流を深めながら、今後の組織拡大に向けた運動に取り組んでいる。

新橋支部大会

一〇月二十八日、第七三回国労新橋支部大会が代議員・来賓・傍聴者一五九名の参加で開催され、二〇名が発言し、多くの代議員が組織強化・拡大について報告をした。

組織拡大では、中野電車区分会が九・一〇月に三名が国労に加入し「最後は国労で退職したい」と五七歳の主任運転士が決意した報告を受け、組織拡大はどこでも誰でも取り組みの活動である経験が報告された。

また池袋車掌区では、病気で国労を離れた方が乗務復帰と同時に国労復帰したいと、一月一日付けの国労加入が報告され拍手に包まれた。新入社員へ「親書」を手渡す取り組みが行われ、現場長に「公正に国労加入を訴える場と施設の利用」を求める申し入れ活動など、



第73回定期支部大会
国労労働組合新橋支部

全体の取り組みとなり意識が高まった事が報告された。

駅職場では契約社員が約三割。組織が本腰を入れた契約社員との労働条件改善と正社員化への取り組みや、エルダー社員の国労への組織化と組合員資格・所属分会の問題や労働条件改善に向けた意見が多く出された。

安全・安定輸送の問題では、安全総点検運動の取り組みと交渉に基づいた点検摘発を実践した報告。少数だが、仲間と話し合い改善を勝ち取った報告。三六協定を巡るJR東労組と現場の組合員との矛盾の実態。年休が入らず生活設計が立たず、超勤前提の作業など

上野支部大会

第一二回上野支部定期大会が、一〇月二五日北区において開催された。当日は代議員・傍聴者など一〇〇名が参加し活発な議論を展開した。

議長に森代議員(東京信号技術センター)、副議長に宮崎代議員(秋葉原駅)を選出。玉之内委員長は挨拶で、①一〇・二四集会に一〇名参加した、②経済の混乱は自・公政権の責任。非正規労働者の雇用を守る闘いが必要、③組織拡大・要求前進の取り組みに引き続き力を、と訴えた。



冒頭、田端駅で五月に国労加入した阿部君と分会長より加入動機、状況報告を受け、拡大の成果・教訓を全体で確認しあった。

経過と運動方針に対する討論では一五

要員不足も明らかになり、粘り強い取り組みを求める発言も出された。

貨物では和解放、昇進試験について一定の成果が得た。今後和解放を活かし組織の拡大、労使正常化にむけ頑張る。NS二〇一計画の推進で合理化が進められ労働条件は悪化し、労災被害や脱線などが起こっている。貨物の構造矛盾を解消しないかぎり展望は開けない。国労総体で取り組んで頂きたいとの報告もされた。

採用差別事件について「解決にむけ新たな段階に入っている」ので、総団結し解決に向け活動する決意も報告され、最後に憲法改悪阻止に奮闘すべき発言もあった。

討論を通じて、一括和解以降、現場ではまだ国労差別があるが、昇進試験の合格拡大や現場での交渉など運動の前進、それに伴う組織拡大が続いていることが確信となって、昨年の大会より分会活動の報告が生き生きと語られていた。

神奈川地区本部大会

神奈川地区本部は一〇月一日、神奈川産業振興センターにおいて、第一三回定期地区本部大会を開催した。

今大会は、一年間に首相が二人も辞任、麻生内閣が誕生し、年内解散総選挙が予想される中、JR不採用事件の新たな局面を迎えた情勢を全体で確認し、早期解決に向け緊迫した大会となった。

大会は、議長に加川代議員(登戸駅)副議長に中家代議員(衣笠駅)を選出し議事が開始された。

中澤委員長挨拶を受けた後、多くの来賓からは、政治不信の混沌とした政治状況の中、不採用事件・安全問題に対し連帯して取り組みを呼びかけられた。

姉崎書記長から経過及び運動方針提起がされ、経過二名・方針一名の代議員から発言があり、①JR不採用事件の早期解決に向けて、②組織拡大に向けた分会の取組みと東労組・管理者の動向、③貨物一括和解後の職場状況と今後の決意、④昇進・昇格試験の問題



第13回国労神奈川地区本部定期大会

点、⑤エルダー社員の問題、等々が出され、米山業務部長の答弁・姉崎書記長から集約答弁がされ、向こう一年間の方針を決定した。

スト権確立一票投票は、代議員五八名中、賛成五八票でスト権が確立した。

大会の最後に中澤執行委員長の、JR不採用事件の早期解決、国労らしい職場世話活動から組織拡大に全力をあげていく、力強い「団結ガンバリ」で閉会した。

大宮地区本部大会

国労大宮地区本部第九回定期大会は、一〇月一日さいたま市与野コミュニティセンターで開催された。

大会冒頭、矢部副委員長から、大宮電力技術センターで東労組に所属していた三五歳の仲間が、大会開催の前日に国労に加入したという嬉しい報告がされた。各地で組織拡大の報告がされているだけに、大宮地区本部内でも組織拡大ができた事に参加の代議員から大きな拍手が起こった。

大会は事故が相次いで発生している職場実態や、昇進昇格試験、そして組織拡大の取り組み報告などが討論された。また、地区本部の取り組みの課題でもある、職場の中心に国労が座るといふ、仕事の議論を通じた取り組みも報告された。来賓として参加した東京地本の中澤執行委員から不採用問題の報告がされ、



今後とも粘り強い取り組みをしていこうという激励の挨拶を受けた。大会は全ての議案

を満場一致で採択。スト権投票も全員の賛成を得て確立された。

集約に立った松井書記長は、労働組合として、国労を職場の真ん中に作る事を目標にし、ながら、組織作りの中心軸にしていこうと決意をのべ閉会となった。

八王子地区本部大会

八王子地区本部は一〇月一日、八王子労働会館において、第一二回定期地区本部大会を開催した。小山委員長から「健全な労使関係を目指して一括和解をしたが、まだ変わらない部分もある。組織強化・拡大へプロジェクトを設置。職



場国労が仕事の中心になろう」とあいさつした。来賓あいさつでは三多摩交通、三多摩平和運動センター、共闘各労組、各政党などから労働条件改善の訴えや平和への訴えが続いた。その後、東京地本・石上委員長、東日本本部・高野書記長のあいさつを受け、横森書記長が経過報告・方針提案を行なった。

昼食休憩後に討論となり、①人員不足で休めない。②ベテラン社員の不足。③JR本体内でもパートナー会社でも経験者が作られていない。④技術力の低下。⑤昇進試験に受からない。⑥共闘運動・平和運動。⑦組織強化・拡大に向けた取り組み。⑧組対費について。⑨新入社員が無理な働かされ方をしている実態。⑩エルダー社員の労働条件改善。⑪かいじ企画職場の劣悪な実態。⑫乗務員区間の運輸区化で行路がきつくなっている事。⑬特急などから乗務を外されている、などの発言があった。

書記長集約では労働条件改善・正常な労使関係構築・組織強化拡大を中心に取組もうと集約され、二〇年度方針が確立した。最後に小山委員長の団結がはばるうでこれからの一年間闘う体制の構築を確認した。